

JOIFA OFFICE AWARD 2023

第2回
JOIFAオフィスアワード
実施報告書

2024.6.10

一般社団法人日本オフィス家具協会

■ 第2回実施概要

【開催日程】

2023年	9月1日～10月31日	応募受付
	11月	1次審査(書類選考) 11社
2024年	2月	2次審査(バーチャル審査) 7社
	3月26日	最終審査(優秀賞、特別賞選出)
	5月29日	オルガテック東京(東京ビッグサイト)にて最優秀賞選出、表彰式開催

【審査委員 (敬称略)】

<審査委員長>

地主 廣明 東京造形大学造形学部デザイン学科 教授

<審査委員>(五十音順)

妹尾 大 東京工業大学工学院経営工学系 教授
豊田 健一 株式会社月刊総務 代表取締役社長
成瀬 友梨 株式会社成瀬・猪熊建築設計事務所 代表取締役
廣川 玉枝 SOMA DESIGN デザイナー
箕浦 龍一 公務部門ワークスタイル改革研究会 研究主幹
若月 貴子 クリスピー・クリーム・ドーナツ・ジャパン株式会社 代表取締役社長

■ 応募企業の規模

・資本金

1億円以下	3
10億円以下	5
100億円以下	1
100億円以上	2

■ 応募オフィス所在地

関東	7 (東京15、埼玉1)
中部	1 (愛知1)
関西	3 (大阪2、兵庫1)

■ 応募オフィスの規模

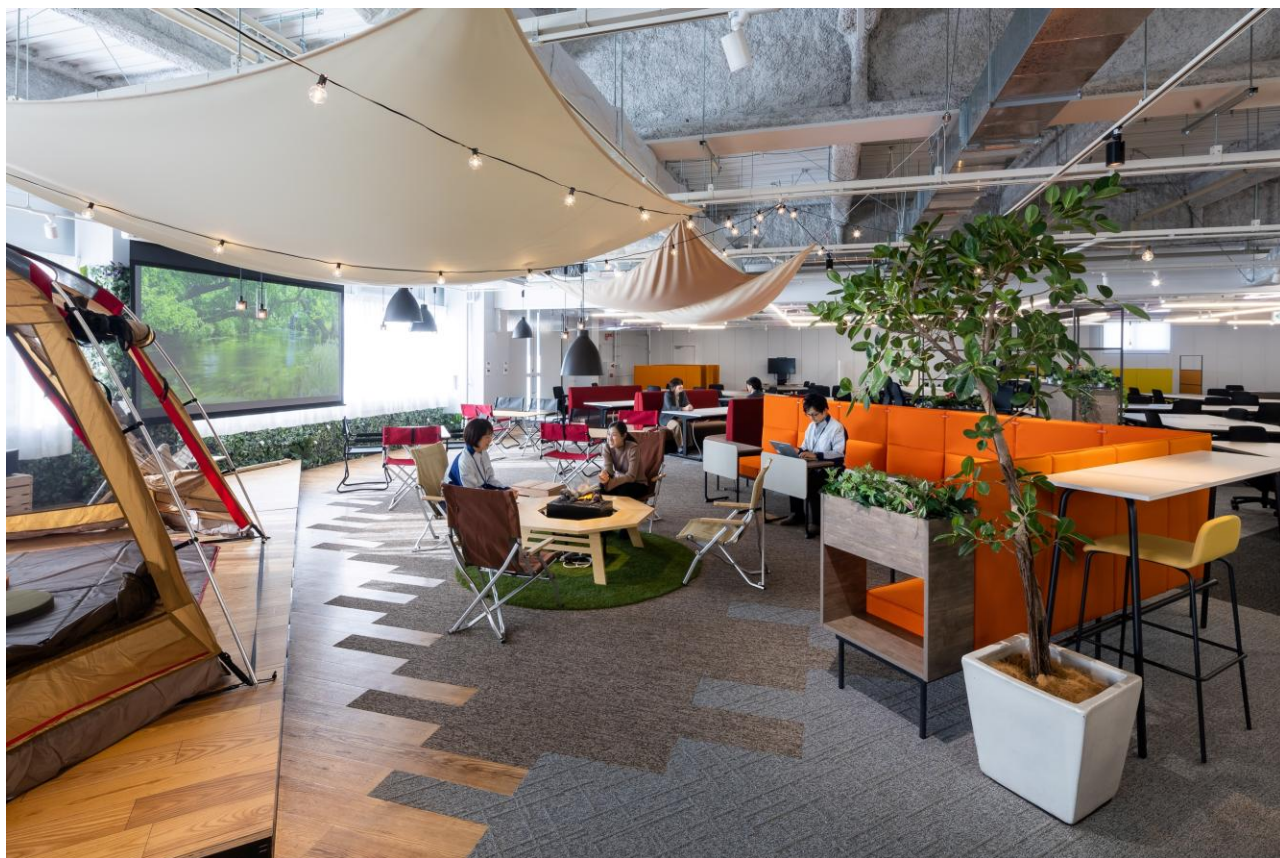
・従業員数

50人未満	3
100人未満	1
300人未満	7

・フロア面積

500㎡未満	1
1000㎡未満	2
3000㎡未満	5
3000㎡以上	3

【最優秀賞】 パナソニック エナジー株式会社



【審査員講評】

・純粹培養の自社が世の中の動きとズレている、という出発点から始まるストーリーがたいへん魅力的だった。アップデートし続けるために、半年に1度のエリア替えを行っているという工夫が良い。利害関係のない付き合い（エンゲージ部）もあいて、「オフィスを育てる」ことに真剣に向き合っている様子がうかがえた。

・運用面でも、しっかりと数値管理しており、作った後の改善意欲も感じられる。心憎いコミュニケーション活性化施策が埋め込まれており、運用面でも優れた施策が実践されている。

・働く環境を変えることにより、社員のマインドも良い方向に変え、結果としてイノベーションに繋がっていくという目標設置が非常に明確だった。管理者目線ではなく、利用者目線でオフィスが構築され、実際社員が自由にオフィスを使いこなしている様子が良い。

・バーコード意見箱の設置など、改革後も持続的・継続的に改善を重ねていこうとするアプローチは、今回応募企業の多くに共通する視点であるが、重要だ。

・新オフィス稼働後の継続的な環境改善活動に取り組まれている様子がうかがえた。

【最優秀賞】 パナソニック エナジー株式会社

URL : <https://www.panasonic.com/jp/energy/>

資本金 : 500百万円

業種 : リチウムイオン電池 開発・製造・販売

応募オフィス名称 : パナソニック エナジー社 セル開発統括本部 守口地区 B 1 棟 4 階

応募オフィスの従業員数 : 285人

使用開始年月 : 2021年11月

応募オフィス所在地 : 大阪府守口市松下町 1 番 1 号

建物の築年数 : 27年

応募オフィスの延床面積/フロア数 : 1,975m²/1フロア

応募オフィスの種類 : 事務所

オフィスを造られた経緯・目的

会社概要

Panasonic ENERGY



パナソニック エナジー株式会社
社長執行役員 只信 一生

「未来を変えるエナジーになる。」

今日生まれた子どもたちのために

幸せの追求と持続可能な環境が矛盾なく調和した社会を実現する。

パナソニック エナジー株式会社は、日々の便利で快適な暮らしを支える乾電池事業や、幅広い分野の社会インフラを支える産業電池、車載用電池等のBtoB事業をグローバルに展開している。未来を変えるために「人類として、やるしかない」という強い意志で、さらなるテクノロジーの進化にも全力で取り組み、これまでの電池という枠を超えて、まだどこにもない価値を創造していく。

Our Mission

幸せの追求と持続可能な環境が
矛盾なく調和した社会の実現。

Our Vision

未来を変えるエナジーになる。

□プロジェクト発足

・事業拡大に伴う、人員の増加

・満足度調査結果に伴う

職場肯定感の低さ 等

オフィス環境改善が大きな課題として浮上し、

オフィス改革プロジェクトが発足。

約10名程度のメンバーを各部門から選出。

事業部長のブログコメントに刺激を受け、
折角やるなら面白いことに挑戦しよう
という精神でオフィス改革プロジェクトを
推進していく。

— 事業部長のブログ 一部抜粋 —

(前略) 一方のパナソニックは、過去20年間全く成長していない、世の中から遅れている会社。そんなパナソニック純粋培養の自分は、世の中の要望や常識とあっているのか？ 答えはNoだ、そこには間違いないズレがある。

その後しばらく考えて、このズレを修正するキーワードは
「Cool」と「Crazy」かな、と思いました。

関西弁でいうと、「折角やるんやから、ちょっと格好ええ、ちょっとおもろい

事しようや」みたいな感覚。

これが足らんのかな、と。経営判断や事業部運営、技術や設備の開発に、隠し味みたいに混ぜ込んでいく事かな、と。”

(2021年 事業部長ブログより抜粋)

— オフィス改革プロジェクト 目的 —

〈ファシリティ戦略〉 ●元倉庫をリノベーション
→B1棟4Fに移転。約2倍にオフィス面積を拡大

〈働き方戦略〉 ●活動に合わせた場づくり
→業務内容に合わせて場を選択し、活動を最大化
●新しいICTツールの導入
→場所に捕らわれない柔軟な働き方をアシスト
●オフィスアップデート
→継続的にアップデートできる拡張性ある空間

〈マインド戦略〉 ●情報のオープン化
→合意形成の会議のスピードを加速
●部署間を越えたつながり強化
→今までにない視点や思想の転換を促す
●職場肯定感の向上
→誰もがイキイキと働く環境づくり

— コンセプト —



「今までにないものを創造する」を象徴し、

「エナジー事業が心の底から面白く、誇りに思える」

を実現するオフィスへ

【最優秀賞】 株式会社船場



【審査員講評】

- ・自己創出的な場づくりには好感が持てた。
- ・オフィスコンセプトに従業員がオフィスで働くことで、体感でき、それが事業の強化に繋がっていると感じた。事業の加速装置としても存在感を発揮している
- ・グッドエシカルとハッカブルデザインがテーマ。社員コンペでオリジナルリサイクル家具を作るのは面白く、ビジョンであるエシカルデザインを体現されているなど感じた。
- ・オフィス改革の前後に社員からのアンケートを実施することで、社員の働き方に寄り添う努力をされている点も評価できる。オフィスは、そのデザインもさることながら、そこで働く社員の意識や働き方に寄り添うことが大事だと思うからだ。

社員の皆さんとの丁寧なコミュニケーションを通じた今後のさらなる進化が楽しみだ。

・Good Ethical やHackableといったコンセプトがいたるところで感じられ、働く人だけでなく訪れる人も自社のビジョンを体感できる場だと思う。

【最優秀賞】 株式会社船場

URL : <https://www.semba1008.co.jp/>

資本金：363百万円

業種：ディスプレイ業

応募オフィス名称：SEMBA Good Ethical Office

応募オフィスの従業員数：212人

使用開始年月：2013年12月

応募オフィス所在地：東京都港区芝浦1-2-3 シーバンスS館 9F

建物の築年数：32年

応募オフィスの延床面積/フロア数：2012㎡/1フロア

応募オフィスの種類：事務所

オフィスを造られた経緯・目的

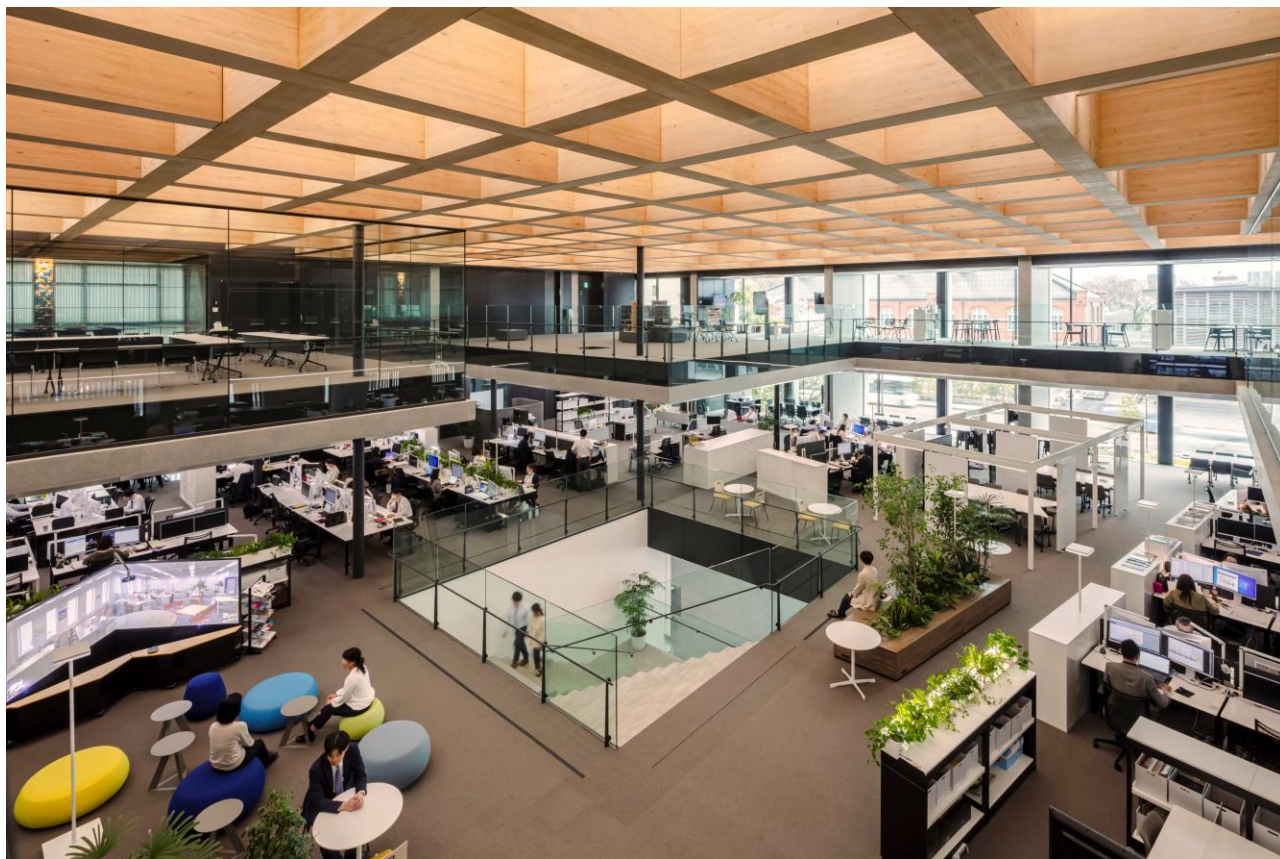
エシカルデザインを体現する、地球や人・社会に優しいグッドエシカルなオフィス

船場は「Good Ethical Company」をビジョンに掲げ、人や地域社会、自然環境へ“おもいやり”の視点を持ち、サプライチェーン全体でより良い社会の共創を目指す「エシカルデザイン」を推進しています。主に商業における内装業界では、販促目的が強いため、収益性、目新しさが重要視され、施工から解体・廃棄までが非常に短く、大金を投資して創ったものを短期間で壊して大量の廃棄物が排出される現状があります。当社も利便性や効率を優先し、見た目のよいデザインを提案してきましたが、これまでの空間づくりで行われてきた環境に負荷がかかる手法に違和感を覚え、倫理的に正しいモノづくりを目指すべきだと考えるようになりました。

2021年4月のオフィスリニューアルでは、当社の推進する「エシカルデザイン」を実装し、ビジョンである「Good Ethical Company」を体現するオフィスを創り上げました。リニューアルは、エシカルなオフィスを作るだけではなく、過程に人を巻き込み、人・地域・環境のこれからを一緒に再考することを目的に行いました。アップサイクル家具デザインの社内コンペや、廃棄建材の可能性を追求するリサーチプロジェクト、社内イベントや勉強会、企業やメディアに向けて完成したオフィスの見学ツアーなどを実施。「環境負荷の小さい素材をどれだけ使うか」に留まらず、「どうすればニーズに合わせて形を変えながら空間を活用し続けられるか」をそれぞれの視点で考えました。

新オフィスは、社員が状況に応じて自由に働ける場に生まれ変わっただけでなく、船場のビジョンや考え方を社員が共有し、社外に発信していく場として機能しています。

【優秀賞】 清水建設株式会社



【審査員講評より一部紹介】

・「コミュニケーションの活性化」「ABW、フリーアドレス」「省エネ」「歴史の尊重と未来へつなげる」「自然のエネルギーを感じる」といったコンセプトを継承維持するための絶え間ない努力と、その姿勢は高く評価できる

・グループアドレスを基調としてのABWにより、部門間コミュニケーション活性化を図る、まさに王道のオフィスである。大学との連携もあり、ここで得た検証結果はビジネスにも応用できる、まさに実験棟の役割も担っているのではないだろうか。部門間のコミュニケーション活性化、部門間の偶然的な出会いは可能性としてあるのだが、場としての偶然性、猥雑さによる刺激、そのような取り組みが欲しい

・働く環境という観点だけでなく、環境性能、地域との接続、街並みへの配慮など、全方位的に高い質の提案が実現されている。

・社員の方々が具体的にどのように使用しているか、地域との繋がりがあるのかなどもう少し詳細をご説明いただけるとより良かった。

・改革実現後も継続的に改善を重ねていこうというアプローチは、今年度応募企業の中にも多くみられる一つの方向性。特に清水建設の場合、環境改善委員会や定期的なアンケートなど、コミュニケーションを継続していく努力に注目した。大事なポイントだと思う。

【優秀賞】 清水建設株式会社

URL : <https://www.shimz.co.jp/>

資本金：74,365百万円

業種：建設業

応募オフィス名称：清水建設北陸支店新社屋

応募オフィスの従業員数：160人

使用開始年月：2021年5月

応募オフィス所在地：石川県金沢市玉川町5-15

建物の築年数：2年

応募オフィスの延床面積/フロア数：4,224m²/4フロア

応募オフィスの種類： 事務所

オフィスを造られた経緯・目的

北陸支店 社屋建替計画の経緯

建替計画の背景

2棟に分かれた旧社屋では200名弱が5フロアに分散し、機動力とコミュニケーションが阻まれていた。より迅速な情報共有と協働に対応すべく、さらに働き方改革・ジェンダーを推進しなければならぬことに対して旧社屋は機能不全に陥っており、建て替えが決定された。

金沢の伝統的街並みと北陸支店100年の融和

100年以上に渡り金沢と歩んできた歴史と伝統を尊重するため、住文地域で緑も豊かな街並みを乱さないよう旧社屋の大きさ・高さ・配置を踏襲。桜や椎の木等の樹木帯を保存し記憶を継承。自律的な制約内で機動力とコミュニケーション向上を図るためにオフィス形状は執務空間を1フロアに集約することとした。

執務空間が本館・別館の5フロアに分散 → 既存樹木を保存し軒高を旧社屋に揃えながらも執務空間を1フロアに集約

清水建設北陸支店新社屋 プロジェクトテーマ — 未来へつなげる超環境型オフィスを北陸から —

経営理念	真摯な姿勢と絶えざる革新志向により社会の期待を超える価値を創造し持続可能な未来づくりに貢献する
長期VISION	SHIMZ VISION 2030 時代を先取りする価値を創造
歴史伝統	金沢支店設立100年 木造館、街並み景観継承、樹林継承
旧支店の課題	部署間の機動力とコミュニケーションが不足
地球環境配慮	「ZEB」、LEED、水素エネルギー利用
働き方改革	ワンプレートオフィス グループアドレス+ABW 新たな働き方の確立

— 3つのコンセプト —

伝統をつなぐ

「金沢と金沢の伝統的街並み」を継承し、金沢の歴史と文化を伝える。金沢の伝統的街並みと調和する行状。

みんなとつながる

「働き方改革を推進するオフィス」を実現。多様な働き方を推進するABW。

未来につなげる

「未来につなげる新技術の実現」を実現。最先端技術と建築家・設計士の活用によるZEBの実現。

計画がスタートした2018年秋に支店内に「建て替え推進委員会」を設立し経営理念と支店戦略の両面から課題整理と方向性の検討を開始、コミュニケーションと共創力向上を図るオフィス環境を目指し左記のコンセプトを打ち立てた。

現状の正確な把握のためにセンシング調査でコミュニケーション量をデータ化して分析した結果、全員を1フロアに集約しつつ相互コミュニケーションが求められる複数の部署をグループ化した「グループアドレス」+ABWの導入が決定された。経営理念にも沿って新技術を開発・導入し最高レベルの環境性能を実現することも目指した。

これらの新たな取り組みを北陸・金沢から広く発信し多くのお客様に体感していただいて普及・波及することを目指し「未来へつなげる超環境型オフィスを北陸から」をプロジェクトテーマとして支店全員が一丸となって運用・活用に取り組んできた。

竣工後は「環境改善委員会」を設立。定期的なアンケートや日常の気づき点をもとに、さらなる活用向上に向けた改善活動を行っている。

【優秀賞】 フマキラー株式会社



【審査員講評】

- ・ブレンズパークというコンセプトとそのカタチ化、そして、それを維持し続けている姿勢等、好感が持てた。
- ・三角形を多用することで常識にとらわれない効果を狙うとしている。工場と同敷地にあることのアドバンテージをもっと追求できそうに思った。
- ・創造の空間をフマキラーなりに理解し、徹底的に統一感を持って実現しているところは素晴らしい。働く従業員にとっても、会社からのメッセージは強烈に届いていると思う。一方、どうしても感じてしまうのが、温もり感の少なさである。自然との調和も視野に入っていると思うので、水はあり、外光があるので、あとは土、木、生の植栽を取り入れられると良いと感じた。
- ・近未来的な意匠が企業ミッションを鮮烈に表現しており、その点で非常に成功していると評価した。プール状の水槽のほとりの喫煙室は、喫煙室のイメージを刷新しており良いと思った。
- ・素晴らしいアイデアは、素晴らしい環境から生まれるがコンセプト。70名の社員のための広大な研究施設オフィス。開放感があり来客にも喜ばれるのではと感じた。
- ・開放感のある空間に、多様な働き方が実現できる要素が配置され、素晴らしいオフィスを作られたと思う。
- ・非常に興味深く、個性的なオフィス（研究所）。少し無機質な感じが近未来的でもあり、背景立地とあいまってリゾート施設のようでもある不思議な空間。
- ・研究所というやや特殊な職場で働く人たちの個性や嗜好を取り込んだオフィスづくりもされていると思った。

【優秀賞】 フマキラー株式会社

URL : <https://www.fumakilla.co.jp/>

資本金 : 3698百万円

業種 : 殺虫用品、家庭用品、園芸用品、業務用品等の製造販売

応募オフィス名称 : プレーンズ・パーク広島

応募オフィスの従業員数 : 70人

使用開始年月 : 2021年5月

応募オフィス所在地 : 広島県廿日市市梅原1-11-13

建物の築年数 : 3年

応募オフィスの延床面積/フロア数 : 4985.88㎡/8フロア

応募オフィスの種類 : 研究所

オフィスを造られた経緯・目的

私たちが目標とする「人の命を守る高い効力」「新価値創造」を実現するためには、現施設の立ち上げ時から約50年経過し、老朽化した開発棟に代わる、新たな開発研究施設が必要でした。今回、私たちが最も大切にしたのは「すばらしいアイデアは、すばらしい環境から生まれる」という設計思想のもと、価値あるモノを生み出すための「創造の空間」をつくること。そのために、モノづくりにおける無限の可能性を感じさせ、さらなるインスピレーションを予感させる三角形の部屋を多数設けています。三角形の空間の壁面を鏡張りにすることにより、室内に入ると大きな万華鏡の世界に入り込んだような無限空間が広がります。50年先の未来を見据えてつくられたこれらの空間には、“無限の夢と可能性”を追求するフマキラーの熱い想いが込められています。室内の天井高を5.5mとすることで、開放感ある空間で想像的商品開発を目指しています。外壁には明るい方からは中が見えなくなる特殊なハーフミラーを壁面に採用することで、日中は外から中の様子が見えませんが、夜になると外から中が見えるようになります。多角的に見ることで物事が違って見えることを体現し、常にさまざまな角度から物事を観察することを促しています。オフィススペースのB棟は、内壁の数を最小限にとどめ、各部署の物理的な距離を縮めることでセクショナリズムを撤廃し、風通しの良い組織を目指しています。プレーンズ・パーク内の施設を結ぶ外通路は、対岸の宮島・厳島神社にある平安時代につくられた水上回廊をモチーフに設計。この土地の文化やモノづくりに込められた想いを過去から未来へとつなぐ象徴となっています。

【特別賞】 第工株式会社



【審査員講評】

・コミュニケーションが課題であった部分は、ワンフロアにもなり、また、ガラス張りで、かつコラボスペース等もあって、課題解決はできたと感じた。オフィスには意味、そして経営としての意思を言語化して、従業員に理解してもらい、腹落ちしてもらうことが、なによりオフィスを作った意味となるのである。

・何よりも、働いているみなさんが非常に満足され、気持ちよく働けていることが素晴らしいと感じた。働く環境としての独自性や革新性があるとより良かった。

・シームレスな環境の実現とその維持管理は理解できたものの、そこで働くワーカーの身体性がやや感じられなかった。そこで働く“生きた”人間が、そこでどう成長しつつ来たのか、という説明が欲しかった。

・フロアが分断された旧オフィスから、メンバーの一体性を確保できる新しいオフィスへと移転したことによって、様々なインパクトが生まれ、経営陣も社員もそれを実感していることが感じられた。今後、この新しい職場環境のもたらした価値を経営・社員のそれぞれがどう評価し、働き方のアップデートや社としてのビジネスの価値向上につなげていくのが重要と思う。

・常時使用するワーカーだけでなく、全社の拠点として配慮されている様子がうかがえた。もっと、自社ならではのカルチャーやビジョンを体現するような内装や取り組みがあると魅力的なオフィスになるのではないかと感じた。

【特別賞】 第工株式会社

URL : <https://www.dk-c.co.jp/>

資本金：200百万円

業種：港湾運送関連事業

応募オフィス名称：第工株式会社 東京本部

応募オフィスの従業員数 8人

使用開始年月：2021年7月

応募オフィス所在地：東京都港区新橋1丁目1番1号 日比谷ビルディング3階

建物の築年数：7年

応募オフィスの延床面積/フロア数：759㎡/2フロア

応募オフィスの種類：事務所

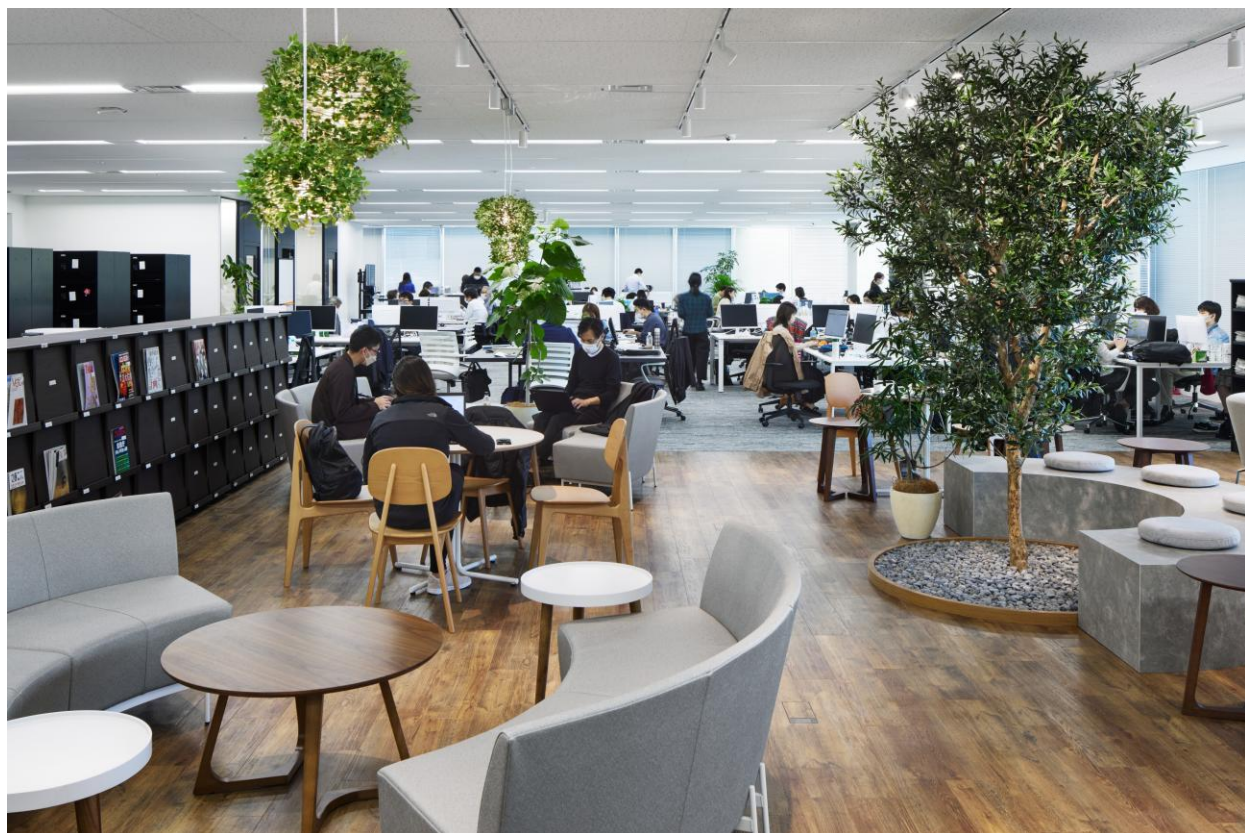
オフィスを造られた経緯・目的

東京本社の入居する自社ビルが老朽化し、様々な問題が露呈し、本社移転を計画しました

旧本社ビルオフィスの問題点

- ① ビル老朽化に伴い、耐震性、空調設備昨日劣化の為、改修が必要
- ② 1フロアが狭く、オフィスが複数フロアにまたがる為、社員同士の情報共有がしづらい
- ③ フロアが分かれていた為、経営層と一般社員との交流が少ない
- ④ オフィスに魅力がなくリクルート面で苦戦
- ⑤ 社員が一堂に集まれるスペースがない

共同ピーアール株式会社



【審査員講評】

- ・イベントは社員が自主的に発案、運営している様子がうかがえた。
- ・共創する森というコンセプトは明快であり、そのコンセプトを体感、可視化されている。運用面でも工夫がされており、説明にあった継続的な取り組みがなされている。
- ・オフィスが移転してからも、社員からの意見によりフリーアドレス席をグループアドレス席に変えるなど、より働きやすい環境へと変化を続けている点は素晴らしいと思った。
- ・綺麗で清潔なオフィスは社員にとっては嬉しい空間作りだと思うが、コンセプトの森らしさや共創がどのように展開されて、どのような使い方がなされているのかが具体的に見えづかった。
- ・「共につくる」という社としての基本コンセプトを大事にしながら新しいオフィスを「共創する森」というコンセプトで多様な働き方を前提としたABWの空間をつくれ、それが社員のパフォーマンス向上や企業価値の向上につながっている。
- ・リニューアル後のオフィスが、効果的に使われている。更なる企業価値の向上と、働き方の更なるアップデートに期待したい。
- ・PR会社として信頼と好感が持てる素敵なオフィスだった。企業としてのオフィスコンセプトを設定した上でオフィスづくりをされている点も良いと思った。

■ 一次審査通過社紹介(※掲載承諾社のみ)

共同ピーアール株式会社

URL : <https://www.kyodo-pr.co.jp/>

資本金 : 543百万円

業種 : サービス業

応募オフィス名称 : 共同ピーアール本社オフィス

応募オフィスの従業員数 : 280人

使用開始年月 : 2021年6月

応募オフィス所在地 : 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10階

建物の築年数 : 21年

応募オフィスの延床面積/フロア数 : 1565㎡/1フロア

応募オフィスの種類 : 事務所

オフィスを造られた経緯・目的

時代が求めるPR会社への進化を実現するオフィスづくり

2016年よりリブランディング始動

KyodoPR

1964

1964年の創業以来、PRの専門会社として、様々な企業や公的機関等のPR活動に携わってきた。1984年、マスメディアが集中する銀座に本社を置き、日本に「カラーシャツ」や「消費者金融」といった言葉を根付かせるなど、社会を巻き込んだPRで世の中に新しい価値を提供。2005年には、PR業界初の上場を果たしてきた。しかしながら、昨今、需要の拡大とともにPR会社は新たな局面を迎え、PR業の根幹であるメディア各社への情報発信活動はもとより、ソーシャルメディアやAIの急速な普及による新しい時代に対応したPRが求められている。

＜オフィスづくりによる解決策＞

① 4フロアに跨る執務エリアによる社内コミュニケーションの弊害	→	① 1フロアに機能集約できる広大なオフィスへの移転
② PR会社のパイオニアとしての知名度と表裏一体にある老舗感の払拭	→	② 経営理念に基づいて新たなビジュアルアイデンティティになる空間演出
③ 時代に変化をもたらすダイナミックな知的創造を高め醸成させる風土作り	→	③ 新たなPR会社としての新サービスを提供する空間コンテンツの新設
④ 優秀な人材の確保と育成、持続可能な働き方への変革	→	④ 事業構造や組織の垣根を超えて集い、刺激し合える、語り合える、和み合える場づくり
	→	⑤ 高品質なデザインと快適性
	→	⑥ 多様な働き方への対応ができるICT活用と、緩やかなゾーニング&アメニティ

＜オフィスコンセプト＞

共創する森

共同ピーアールの共同は「共につくる」を意味する。社員はもちろん、外部ブレン、パートナーが集い、垣根なくアイデアを共有し、語り合い、新たなチャレンジをすることで、新たな価値を共に創造するオフィスづくり。多様な人材が持つ知識や知恵、経験、人脈といった果実豊かな森の如く、それぞれが自分らしく働きやすい場で、それぞれが切磋琢磨し合い育つ場として、緑と光が溢れる、自然と調和したオフィス空間をベースに、共創が体現できる仕掛けを随所に取り入れることで、生命の源であり、アイデアの源であるイノベーションの森を体現した。

経営理念：我々は情熱と創造性で顧客の課題解決を図り、100年のコミュニケーションをつなぐPRエージェンシーである。